

### 樹齢五百年以上の「藤」さらなる長寿祈願

「藤寺」の愛称で親しまれている定禅寺(弁城)で、4月16日に「藤まつり」が開催されました。約八百㎡の境内一面に咲き誇る満開の藤と、毎年恒例の本行事を心待ちにしていた多くの花見客が来訪。住職や虚無僧による花供養が厳かに行われ、福智町のシンボルである「迎接の藤」のさらなる長寿を願いました。



↑福岡県の天然記念物に指定され、福智町の花にもなっている「迎接の藤」。

↓サウナ好きの参加者と一緒に「整い」の時間を愉しむ主催者の日高さん(中央)



### 7世代プロジェクト「筑豊サウナフェス」 広大な自然の中でサウナと外気浴を満喫

7世代CANP場(市場)で4月16日に「筑豊サウナフェス」が開かれました。豊かな自然の中、24人が最高温度105℃に達する野外サウナを堪能した後、ジビエ料理のふるまいに舌鼓。7世代プロジェクト代表の日高将博さんは「今後もサウナフェスを定期的に関き、わくわくが溢れるキャンプ場を作りたい」と未来を見据えました。

### 3年ぶりの青陽会作品展 自由をテーマに油絵の魅力を再び

油彩絵画教室「青陽会」が4月12日から17日の間、ふくちのちで「第29回 青陽会の作品展」を開催しました。コロナ禍で3年ぶりとなる本展示会では、10人のアーティストが自由に描いた個性溢れる43作品を展示。平野アキ子会長は「次回の展示会に向け、今後も会員全員と創作活動に励みたい」と意気込みました。



↑写真左からは澤清一先生、平野アキ子会長、谷典子さん、藤田明利さん。

↓3月20日、鮮やかに咲く満開の虎尾桜。天候に恵まれず、満開は数日のみ。



### 虎尾桜が満開 緋色の異彩放ち春の訪れ告げる一本桜

福智山の山合に咲く、樹齢600年以上を誇る県内最大で最古のエドヒガン「虎尾桜」が3月20日頃に満開を迎えました。福智山の中腹で静かに春を告げる一本桜。今年も鮮やかな緋色の桜を見ようと県内外から見物客が訪れ、神秘的な美しさに思わず息をのみ、時を忘れて仰ぎ見る光景が多く見られました。

↓手遊びや歌を交えた先生の話で緊張がほぐれ、笑顔でお菓子を受け取る新一年生(弁城小)。



### 町内7校で入学式 期待を胸に新生活がスタート

町内の中学校で4月10日に、小学校と金田義務で4月11日に入学式が行われました。中学生等205人(赤池72人、方城中69人、金田義務後期76人)、小学生等161人(上野小11人、市場小36人、伊方小42人、弁城小7人、金田義務前期64人)が入学または進学。弁城小では、在校生による手作りの学校紹介も行われ、新入生たちは新しい日々の始まりに目を輝かせていました。

### 福岡県中学校男子バスケットボール新人戦 田川と筑豊を制して県大会ベスト8

方城中男子バスケットボール部が、2月4日に行われた新人戦に出場。長所のチームワークを生かして田川・筑豊両大会で優勝しました。県大会でもベスト8に進出する快挙を達成。荒谷虎男キャプテンは「夏の県大会では、今大会のベスト8で負けた花尾中学校(北九州)に勝ってベスト4を目指します」と力強く宣言しました。



↑長所は「仲が良いところ」(荒谷キャプテン談)という方城中男子バスケット部。

↓稚魚放流は遠賀川源流サケの会と田川ふるさと川づくり交流会の協力で実現。



### 4年後の帰郷を信じ河川清めて帰り待つ 鮭の稚魚放流

金田義務4年生の生徒58人が、3月13日に学校裏の中元寺川で、鮭の稚魚を放流しました。鮭が帰ることができる綺麗な川づくりを通じ、環境保護の大切さを学ぶ10年以上続くこの事業は、コロナ禍で3年ぶりの開催。児童たちは、4年後に鮭が帰って来ることを願い、綺麗な川を守る決意を固めていました。